# ARTS for HOPE 活動報告書
# 2016年5月12日～5月15日

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

## ①5月14日／熊本県阿蘇郡西原村　山西小学校避難所
## 「Happy Doll Project」の実施

熊本地震で大きな被害を受けた地域を訪れ、2日間の現地視察を経て、2か所の避難所で活動を行いました。
1日目は阿蘇郡にある西原村へ。650人以上が避難生活を続けており、山西小学校では200人以上の方々が生活を続けています。片隅に材料を運び込むやいなや「なにやるの！」と興味津々に集まってきた子どもたち。自然と「枕」を作り始めたことは、2011年に東北の避難所を訪れた時と共通していました。「これからどうしたらいいのか分からない」「早く仮設に入りたいけど、しばらくは入れそうもない」と、作品をつくりながら悩みを語り始めたおばあちゃん。そのおばあちゃんをお見舞いに来た孫の女の子。自分のものはつくらず、おばあちゃんにプレゼントするハッピードールを一生懸命つくっていました。

学校には村民のための
24時間体制の給水車が

九州に住むボランティア
メンバーも駆けつけ
てくれました

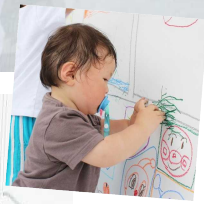
HAPPY DOLL PROJECT
HAPPY DOLL
PROJECT

## ②5月14日／熊本県阿蘇郡西原村　山西小学校避難所
## 「Happy Painthing Project」の実施

**午後は限られたスペースいっぱいに大きなキャンバスを広げ、子どもたちと絵を描きました。完成した作品は避難所一角に展示。「子どもたちが描いたと？」と笑顔で見つめるおばあちゃん。何度も見に来る子どもたち。生活に必要な物資や情報、段ボールでいっぱいの空間に、ポッと彩りを灯すような空間が生まれました。**

## ③5月15日／熊本県益城町　総合体育館避難所
## 「Happy Painting Project」の実施

益城町の中でも大きな被害が目立つ中心部。850人以上が避難生活を送る総合体育館では現在も断水が続いています。屋外に設置したキャンバスのテーマは、My favorite things-わたしの好きなもの-。震災以降、口数が減ってしまったという女の子、お母さんから離れなくなってしまったという子どもたちも、晴天の空の下、夢中になって描いていました。



## ④5月15日／熊本県益城町　総合体育館避難所
## 「Happy Doll Project」の実施

**午後は屋外でハッピードール。お昼から夕方まで、たくさんの子どもたちが入れ替わり立ち替わり「私もつくりたい！」と遊びにやってきました。作品について聞くと、お父さんやお母さん、弟へのプレゼントがあり、完成したハッピードールの全てにストーリーがありました。「参加できて良かった！」「お母さんに見せてくる！」と誇らしげだった子どもたち。暑さも忘れて夢中で楽しんでいました。**